

No. 92

発 行 所 在 地 連 絡 先
 〒556-0014 大阪市浪速区大国一丁目十一番一
 TEL 06-6647-2077
 FAX 06-6647-2087
 peaceclub@m01.p-c.ne.jp
<http://w01.p-c.ne.jp/peaceclub/>

堀悦雄

暑い砂漠の中で一年半の仕事を終えた魂君、自分への褒美に子供のころから憧れだったアフリカへ。まずは玄関のエジプトへ、やっぱりピラミッドとスフィンクスでしよう。ナイル河畔から河岸段丘を上がった高台の砂漠の中にそびえるピラミッド！重機も無い時代に人力だけでこんな大デカいものを積み上げたアラブ人すごい！次は一番行きかったケニヤ。野生動物がいっぱい。これにあげられてアフリカにきた魂君。野生動物が多い公園をガイドさんの運転する車でいろんな動物を探すツアーではライオンやチーターは近くまで行っても車の中なのでおっきな猫を見ているようで怖くない。しかし、カバ、サイ、象の群れに近づ

くとガイドさんがすくく緊張している。彼らを怒らせると車をひっくり返されるそうで見ているこっちも緊張する。公園の中のサファリロッジに泊まった日の夕方、ライフルを背負ったガードマンさんがロッジの周りを警戒していた。その日の夜中にはライオンらしき吠え声が近くで聞こえてよく眠れなかった。ナイロビで出会った人たちは割と普通に常温のビールを飲んでいました。魂君も真似をして飲んでみたら、確かに常温の方がビールの味そのものは解る。以て来時々常温ビールを楽しむおニヤヤ魂君です。ちなみにケニヤで飲んだのはエレファントビール! (旅心をくすぐられる) ナイロビは赤道直下だけと標高が1600mほど有って日差しはきついが陰に入ると涼しい。一週間ほどの滞在で次のインド洋に浮かぶセイシェルへ。元フランス領で公用語はフランス語だけど旅行者は英語でも通じた。ここで二週

間、近くのバードアイランドという島（島の形がヒヨコみたいで野鳥がいっぱいいる）に二日行った以外は本島でボケらつとして命の洗濯。ここには民家の庭にバナラの木が生えててバナラビーンが成っていた。それと、セイシエルには7角形のコインがあった。次はスリランカへ、飛行機が夜中に着いた、入国審査が終ったたらタクシイも居ない！ たまたま一緒に飛行機を降りたカナダ人の兄ちゃんと途方に暮れたら入国審査官のおっちゃんに白タクで載せてくれた。夜中の宿探して安宿を希望したら行った宿は部屋を開けるとクマネズミがいっぱい走り回っていてカナダ人の兄ちゃんと次行こうと夜中のコロンボの街をうろろした。コロンボの動物園にはカラスが飼われていた（ここにはカラスは居ないのか）。スリランカでは世界一運賃の安いという汽車に乗って島の中程にあるキャンデーという町に。

その街にはお釈迦さんの歯が納められているというお寺に参った。もちろん歯は見られないけどきれいなお寺の壁に大きな目が書かれていた。

そしていよいよ最終目的地ネパールへ、ネパール航空の飛行機は聳える山々の間を縫うようにして高度を下げて行きカトマンズ空港へ。40年以上前のカトマンズ空港は入国審査場に裸電球が一個、観光案内書はロソクが燈っていた。町の北側には圧倒されるヒマラヤの山々。町ゆく人々は素朴な感じ、地元の人々が利用しそうなレストランで初めて見るような食事をしたんだけど少しおなかを壊したただけで大丈夫だった。アンナプルナという山が見たくてカトマンズからセスナで一時間ほど西に飛んでポカラという町へ（飛行場は砂利の滑走路だった）、帰りはバスでネパールの村の人たちの暮らしが見たかのように上係るので出発の日ば早朝

まだ暗いうちに宿を出てバスターミナルへ。あたりが暗い中ふと見上げると、アンナブルナの山頂にはもう朝日が当たつてオレンジ色に輝いていた！日本では考えられない光景に感動で体が震え長い間見上げていた。周りが明るくなつてバスターミナルに着いたが定刻になつてもバスは来ず、待つても待つても来ないので係員に尋ねたら「もう行つたと思う」だど！「うそや！」と思つたけどしうが、ない、バスをあきらめて飛行機にと思い飛行場へ。「席在りませんか？」「満席！」ガビン！仕方なくバスターミナルへ戻る途中に観光客を乗せた高速バスが土煙を挙げながら行つてしまつた（予定時刻に乗り物が来ないのは世界の常識を思い知らされた）。こ

うなつたらカトマンスに着くのは夜になるが、鈍行バスで帰るしかない。鈍行バスは窓から上が木造でガタピシ。全線ほぼ舗装はなく崖沿いの道にガイドレールもなく落ちたら完全に死ぬ。運転席の天井際にGOOD LUCKと有つた意味が判つた。峠を降りると橋のない川をジャバジャバと渡る。途中の村に止まると道端の市場で野菜やその場で解体した肉を売つていた）バスには生き

た鶏やヤギを連れて乗り込んでくる人。込んでくると人掛けの椅子に3人。日本ではこんな経験出来ないなあと思つて、ある意味楽しかった。一か月の漫遊旅行を終えて日本へ、バンコクで乗り継いで大阪空港行き、機内で隣のおじさんが無言で突然入国審査カードを私の目の前に。「書き方が判らないんですか？」と尋ねたらそのおじさん目を丸くして「あんた日本語うまいな」と、私日本人です」と答えたなら丸い目がつと丸くなった。しかし、その時の魂、君、焼けて真っ黒、髪は潮焼けて赤毛、レイバンのサングラスにネパールで買ったカモシカのバックスキンのポンチョ（そら日本人には見えないよな）。何とかたどり着いた。やっぱり祖国日本はいいなあ。

一年半の稼が有るからゆつくりしようという母親の居る北海道へ。土産話もして、現地給以外の給料が溜まっていたはずの通帳を見たら！ほとんど無い！！えっ！なんでも聞いたら、新興宗教に凝った母が遠い砂漠で危険な仕事をしている息子の無事を願つて「お供えした」と。

ガビン……！！私を思つてやった事。不思議と怒り

は湧かなかった。しかし、体から力が抜けていくのは止められなかった。

さあ魂君これからどうする？



わたしの思い出ご飯

上田友子

古い話になるが、昭和十八年、東成区片江町コクヨの近くに住んでいた。両親と子供八人の大家族。

食品はほぼ配給制。昭和十八年の夏はなすびばかり続いていた。父親は徴兵に取られ、軍需工場に通動していた。六番目に生まれた長男が疫病に感染し、「晩で亡くなった。自分の頭にぶら下がっている氷嚢を「こ

れ茄子か？」とたずねられ、私達は涙をこぼした。

父親は長男が蜻蛉釣をしていた「広っぱ」の前を通るのを辛がり私達は奈良に転居した。奈良は教育熱心な地域で、大部分のクラスメートが勉強教室に通っていた。うちは経済的に逼迫していたので、指導書を買ってもらい理科と算数はそれで勉強したのを記憶している。二才年下の妹はスマートでどこへ行っても人気があったが、私はぶきつちよで、引き込み思案だった。ドッジボール遊びではボールを両手で受けとめられず、いつも逃げまくっていた。

食糧難は大阪も奈良もいっしょで、みんなおなかを空かしていた。あるとき「大和パン」といって雑穀や野草まじりのまっくろな蒸しパンを学校で2個ずつ配ってもらった。私は、家で食べよう、家族みんなで分けて食べようと考えた。妹も同じことを考えていた。二人分を合わせて家族みんなで食べた記憶は今だに消えない。おいしかった。

かき捨てならぬ旅の味

齋藤謙一



四月の第二週目、遂に名古屋へ旅行に行くことが出来た。きっかけは二月末、毅さんの鶴の一声。「旅行に行きたい」という希望から、どこに行くのか、何泊するのか、参加メンバーは誰にするのか等々、旅の詳細について聞き取りを始めた。旅の目的は毅さんの中で既に決定済み。生活フロアから聞こえてくる皆の会話で話題に挙がっていた東山動物園だった。それから約二週間くらい、時間の隙をみてその他の詳細を本人から聞き取りメモしていった。旅のお楽しみは計

画段階から始まっているのである。とないうる？こないする？最終的に参加メンバーは、毅さん、瓶田さん、上村さん、私めの四人ということ。

第一日目。一路順風、近鉄にて名古屋を目指す。車内での二時間はお気楽なムードで遠足のバスの中みたいな雰囲気。和気あいあいええ感じやっただんですが、名古屋に着くと天候は生憎の曇り。昼飯はどないしまんやわーとか言いながら地下鉄を乗り継いで東山動物園へ。

ところが我々の期待を大きく裏切り天候はさらに悪化、季節外れの突風で気温もぐんぐん下がっていく。基本的に雨男やアクシデントを呼び寄せやすい体質？の四人が集まっているだけに「やっぱ俺ら凄いなあッ(苦笑)」とか言いながら一同感心する。感心している場合やあらへんのやけど…そんなこんなで到着後、園内のスナックパークで遅い昼食ということになったのですが、嵐で一般客が食堂に押し寄せて席の確保が困難な状態。我々は意見を集約、勇気を振り絞り外のテラス席でランチを頂

くことにする。にしても外は寒風吹きすさぶ荒れ模様、温かい寿がきやのラーメンを食べたと言っても体温がぐんぐん奪われてしまふ。食事が終わる頃に殺っさんが叫んだ！『寒い！帰るッ〜』、だがしかし、票は二対三である。折角ここまで来たのに入園してラーメンだけ食って帰るなんて遥々大阪からやって来た意味がない。何とか本人を説得して園内の小高い丘の上にあるスカイタワーへ避難することにする。そこは期待通り外気温から一切遮断された暖かい環境でした。名古屋市街を一望でき身も心もリフレッシュ。その後続けざまに爬虫類館で温まる。

名物『矢場とん』に行くことになりました。わらし定食やったと思うけど殺っさんが大きい豚カツ二枚をペロリと平らげたのは驚きました。苦行を一つ乗り越えた後の名物とんかつは格別だったと思います。宿泊施設チェックイン後はみんなでお風呂、湯をやや熱めに張って日中の冷え切った体を温める。長風呂すぎて殺っさんが少しのぼせちゃったけど無事に一日目を終えることができました。夜間、殺っさんの体交を完遂してくれた上村さんに多謝申し上げます。

二日目は快晴。宿泊施設の隣にあった赤レンガ、ネオ・バロック様式でそびえ立つ名古屋市政資料館(旧名古屋高等裁判所・明治・大正時代の法廷や留置場あり)を見学後、賑やかな大須商店街を抜けて大須観音へ。旅の最後の昼食、殺っさんの希望で名古屋名物のナポリタン有名店を目指し歩いていると、何故か我々の後方からカラスの大群が飛来し、それと同時に殺っさんにカラスの糞が直撃…(引きの強さに思わず一同爆笑してしまふ。アクシデントはど



実里さんの近況
阪本照代

こからやってくるか分からないのである。またまた書ききれませんが、旅は憂いもの辛いもの、そんなところにも醍醐味があるのでしょう。

あと一回で歯の治療が終わる。佐賀に病院通いだけで温泉も観光もしていない。でもいっぱいおいしいものも面白いところもありそうです。今度みんなを連れて遊びに行きたい。いつもここ〇〇ちゃん喜ぶかなあ。このお酒飲ましたりしたいなあ。考える癖がついていて。今はチャッピー(妹の忘れ形見の老犬)が心配でとんぼ帰り。今年の沖縄の知事選にはなんととしても宮古へいかなくちや。8月の終わりに計画しようか？今は漢方薬とちこり村の黒ニンニクを飲んでいる。きいてるみたい。そこから元気になるような気がする。時代はずごく悪いと思う。何かすることあるかいつも考えている。とにかく生き延びてどうなるか観る義務がある。いつの間にか原発54基、どうなってる？一発どこかにドローンが何かつっこめば日本列島は全滅。そんな中になが出来るのか。人間のツケを見極めるってことか。ごめんさい。

◇ 編集後記 ◇

岸本さんが入院されて月日が経つ。その目見舞に行つたのは齋藤さんと天西さん。そしてピース混迷のワイトップ！ 聡

先輩

聡先輩は病室で騒ぐことなく神妙な面持ち、岸本さんに励ましの言葉を送り、何度も何度も握手を求めた。帰り際ナースステーション「岸本さんをよろしくお願ひします」とは聡先輩『漢！岸本隆』の存在やっぱ凄

現在入院しています
岸本さんと脇坂さん、
そしてこの間転けて大
腿骨を折った瓶田さん
ご回復を…いと願う。
編集部

「祈ること」

ひめの じゅんぼう
姫野隼峰

ひめの じゅんぼう
姫野隼峰と申します

ピース通信の編集で
山伏をしております



ムズカシイ
テーマ...

今回「祈り」をテーマに
書いてほしいとのこと
少し考えて漫画として
描いてみます

私達人類はいろんな
時代や場所で
祈ってきました



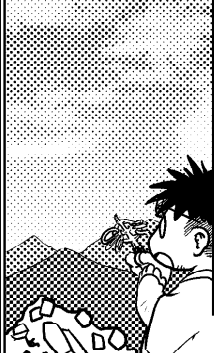
家庭の平安、国家安泰や
死者への弔い、自らの
目的の成就など
祈りの動機はさまざまです



共通していることは
みんな「幸せでありたい」
ということ



そのため我々は
移り変わるものごとの中で
「大きなもの」に祈ります



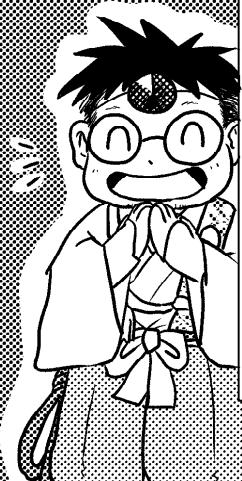
様々な場所やありようで
祈りながら生きながら
自分の中の大きなものとの
つながりを探し求めます

祈るとは
時間も場所も
生も死も超えた



「大いなる生命の声」と
向き合うこと

...なのかなーと思います



おわり